

平成 15 年 5 月 24 日
表彰委員長
岩崎好陽

平成 15 年度表彰について

平成 15 年度の表彰を平成 16 年度の定期総会において行うこととし、機関誌「におい・かおり環境学会誌」(平成 15 年 9 月号)掲載により会員から表彰候補者推薦募集を行った。推薦者の中から各賞選考部会における検討結果を受けて表彰委員会で審議し、以下のとおり各賞の候補者を決定した。(敬称略)

1. 功 勞 賞

功勞賞は、本会の会員であり、本会の発展に貢献若しくは臭気に関する分野において特に優れた功績を認められた個人に贈呈されるものである。

○ 武藤暢夫

前 におい・かおり環境協会会長

(受賞理由)

当協会の前身である悪臭公害研究会が設立された昭和 44 年から機関誌の編集委員長、同 49 年から副委員長、同 59 年から副会長を歴任され、社団法人となった昭和 62 年からは初代副会長、平成 7 年から第三代目の会長に就任され平成 15 年 6 月 3 日までその職を全うされた。その間、実に 35 年もの期間を、当協会の事業の発展、基盤の確立のために尽くされてきた。その功績は誠に顕著なものがあり、当協会の発展に大きく貢献した。

2. 学術賞

学術賞は、本会の会員であり、においに関する論文・著作等学術的研究成果が特に優れた個人に贈呈されるものである。

○ 高橋通正 神奈川県環境科学センター 環境技術部専門研究員

(受賞理由)

現神奈川県環境科学センターの前身である神奈川県公害センター入所以来、臭気に関する実際面の調査、研究に取り組んできており、その領域は、臭気の発生状況を産業別や施設の種類別に調査したもの、各種脱臭システムの性能調査や処理施設の調査に関するもの、嗅覚測定法の簡易化及び測定法の改良研究など多岐にわたっている。特に環境省からの平成 14 年度研究テーマである嗅覚測定法の精度管理・安全管理における安全管理面の報告書をまとめたほか測定評価部会の部会長として簡易測定の研究を促進させ、報告書を協会に提出している。これらの実績は本会の学術賞に相応しい。

3. 技術賞

技術賞は、本会の正会員、公共会員および賛助会員である法人会員又はこれらに所属する個人又はグループで、臭気に関する調査研究又は臭気対策技術等に関して顕著な貢献があったと認められる者等に贈呈されるもので次の3社に決定した。

(五十音順)

- 株式会社 ガステック 代表取締役社長 松野 洸

(受賞理由)

検知管等による臭気簡易測定（評価）技術の開発と実用化

臭気対策の基本となる、臭気発生源における設備の維持管理や脱臭装置等の性能評価などについては、現場で簡単に特定悪臭物質の濃度が測定できる検知管等の簡易測定技術が有効な手法とされており、現在、さまざまな事業場等で活用されている。株式会社ガステックは、一貫して、簡易測定をテーマとして取り組んでおり、多くの臭気発生現場において臭気簡易測定（評価）技術の有効性を実証してきた。例えば、汎用の検知管に加え、臭気対策用としての特殊検知管あるいは各種設備管理用の測定器の開発など、臭気監視を目的とした臭気簡易計測機器の実用化を成功しており、この分野における多大の貢献が認められるので本会技術賞として相応しい。

- 光明理化学工業株式会社 代表取締役 北川不二男

(受賞理由)

検知管法による悪臭物質測定技術の開発と実用化

光明理化学工業株式会社は、昭和23年より北川式検知管による微量物質の測定技術の開発を行なってきた。中でもアンモニア、硫化水素等の検知管は、鶏舎や牛舎等の管理に有効性を発揮し、臭気測定、脱臭設備の維持管理、脱臭装置、脱臭剤の試験研究まで広く使用されている。同社は新しい反応原理の開発に力を注ぎ、世界に先駆けて硫化水素の微量濃度用検知管を開発、悪臭物質簡易測定マニュアルに基づく簡易測定法の活用について(環大特第58号)など検知管法による敷地境界測定の基礎をつくり、またアンモニアの超微量検知管に係る開発など微量の悪臭物質測定用検知管の実用化を成功させたものであり、本会技術賞に相応しい。

- 株式会社神鋼環境ソリューション 常務取締役第二営業本部長 近藤史朗

(受賞理由)

悪臭対策技術

悪臭対策には、発生源対策及び排気脱臭対策（洗浄法、吸着法、オゾン法、生物処理法、燃焼法、消臭剤注入法、光触媒法及びプラズマ法）がある。株式会社神鋼環境ソリューションは、これらの悪臭対策全般にわたって商品化しに成功し納入実績もあるが、なかでも洗浄法、吸着法及び生物処理法は、各手法について特徴を備えている。具体的には、洗浄法は充填物が薄板積層型で気液接触効率が高く、通気損失が小さい。吸着法は活性炭に酸、塩基及び酸化剤を添着して三層式とし飛躍的に吸着容量を高め

た。生物処理法は担体に活性炭とゼオライト混合物を使用し、初期は吸着原理で脱臭し馴致期間を補うことができる。昭和47年販売開始以来、約500基の販売実績があり本会技術賞に相応しい。